

平成17年4月6日

都内初の施設導入型「学習療法」の研究成果が報告されました

～ 学習療法により認知症高齢者の脳機能の改善に成功 ～

このたび認知症の予防・改善への効果が期待される「学習療法」を、昨年9月から豊島区認知症改善モデル事業として導入した、区内の介護老人保健施設「池袋えびすの郷」（池袋本町2-34-1）での研究成果が報告された。この事業は、豊島区が東北大学川島隆太教授を研究代表者とする研究グループと共同で実施してきたもの。

研究体制：東北大学・池袋えびすの郷・(株)くもん学習療法センター・豊島区

「学習療法」とは？

学習療法とは、東北大学未来科学技術共同研究センター 川島隆太教授の研究グループが提唱する新しい療法で、「音読と計算を中心とする教材を用いた学習を、学習者と指導者がコミュニケーションをとりながら行うことにより、学習者の認知機能やコミュニケーション機能、身辺自立機能などの前頭前野機能の維持・改善をはかるもの」と定義されている。4年前から本格的な研究が始まり、平成16年4月には「学習療法研究会」も設立されるなど、急速に介護の世界に浸透しつつある。

共同研究の方法

池袋えびすの郷に入所中の認知症高齢者（71歳～96歳：平均87.7歳）に、高齢者用の計算、読み書きのドリル教材を使った学習を週5日間、1回15分程度を通常の日課に組み込んで、スタッフの支援によって実施。

前頭葉機能の調査として、FAB検査（Frontal Assessment at Bedside<前頭前野機能検査>：面接で、言葉と動作によって行われる検査）と、認知障害測定の調査としてMMSE検査（Mini-Mental State Examination：認知障害測定の尺度で、認知能力や記憶力を簡便に検査する11項目の設問で構成）を行った。検査は学習開始時に一度、以後3ヶ月おきに実施した。

研究は、平成16年9月1日から平成17年2月末日までの6ヶ月間行われた。

データの解析は、6か月学習を継続した5名と、3ヶ月学習を継続した11名（6か月学習を継続した5名を含む）に分けて行なわれた。

研究成果報告の要旨

6か月学習を継続した5名については、MMSE得点が開始前の平均点が10.4点だったものが3ヵ月経過時には11.4点、6ヵ月経過時には13.0点に改善した。FAB得点は、開始前平均点が5.2点だったものが3ヵ月経過時には7.0点、6ヵ月経過時には8.4点に改善した。MMSE・FAB得点とも統計的に有意な変化と認められる。

3ヶ月学習を継続した11名については、MMSE得点が開始前の平均点が11.2点だったものが3ヵ月経過時には12.0点に改善したが、統計的には有意な変化とは言えない。FAB得点は、開始前平均点が5.9点だったものが3ヵ月経過時には7.6点に改善した。FAB得点においては統計的に有意な変化と認められる。

また、他者とのコミュニケーション能力の向上、意欲の向上、過去の記憶の改善等が認められた。

このことから、学習療法を行なった群は、前頭前野機能は改善し、全般的知的知能も改善され、学習療法により認知症高齢者の脳機能の改善に成功したと考えられる。日常のケアだけを行なった群が、期間の経過とともにMMSE・FAB得点とも低下することは従来の研究により明らかである

が、今回の共同研究で、学習療法によって認知症高齢者の脳機能低下の進行を防止、逆に脳機能を改善できることが示唆された。

「池袋えびすの郷」スタッフの声

実際に学習療法に携わってきた介護老人保健施設「池袋えびすの郷」のスタッフは、学習者である高齢者の方々の変化について、「認知症の方の変化は比較的緩やかだが、全体的に笑顔が増え、コミュニケーションを自発的に行なってくるなどの変化が見られる。また、会話のやり取りがスムーズになり、会話の量自体も増えてきた。」と語っている。また「上手く書けなかった文字を書き直すなど、書くことに対する意欲を感じる」「4ヶ月位経過した頃から、干してある洗濯物をたたむなど、自分の役割を見つけて動き出す等の変化が現れた方もいる。」「『周囲に対する無関心』は認知症の症状のひとつだが、周囲に対する配慮・関心のようなものが出てきた。」「今まで強かった帰宅願望が、徐々に弱くなってきた方がいる。」など、日常生活上の変化を指摘している。

池袋えびすの郷では今後、施設入所者だけでなく通所者に対しても学習療法を導入、施設全体で認知症の症状改善・予防への取り組みを進めていく予定。

区では今回の研究成果報告を「学習療法が認知症の進行防止に一定の効果が認められる」として、今後、区内の他の施設事業者に対しても情報提供を行い、学習療法の導入を推進していく方針。また今年度より、要介護状態になることを未然に防ぎ、高齢者の社会参加を進めるため『75歳からの介護予防大作戦』と題して、「脳イキイキ事業（脳の健康教室）」「高齢者筋力向上トレーニング事業」「としま・おたっしや21（介護予防健診）」「転倒予防教室」を展開する。これにより、毎年75歳に到達する高齢者2,000人のうち75%にあたる約1,500人の高齢者が、身の回りのことは自分でできる「自立状態」を維持することを目標とする。また、このことにより介護給付費・医療費の伸びの抑制を図る。

詳細：保健福祉部 介護予防担当課長